

14. 街なかの動き

街づくりに関するNPOや市民団体が動き始めている。内容は、イベント、ワークショップ、シンポジウムなどで、形態は様々であるが新しい行政との関係を構築しながら、徐々に中心市街地に市民が目を向けるきっかけとなりつつある。以下にいくつかの活動を紹介する。

【まちおん】

「まちから始まる音楽フェスタ」

アマチュアミュージシャンと若手商店主の企画による佐賀のミュージシャンの育成・交流・発信と市街地の活性化をテーマにしたイベントである。平成16年5月に第1回が開催され、現在では市街地内10箇所のステージで、様々なジャンルの演奏会が開催されている。



会場のひとつ「佐嘉神社」の様子

【佐賀北高等学校揮毫会】

平成15年9月に発足した商店街の女性まちづくりグループ「えびすめ会」が、中心市街地の賑わいから発案し、昨年で5回目の開催である。全日本高等学校書道コンクール連続13回日本一に輝く佐賀県立北高等学校書道部による書道のイベント。

656広場を会場に、色紙や木材を購入し、無料で好きな文字を様々な書体で書道部員に書いてもらうことができる。



佐賀北高書道部揮毫会様子

14. 街なかの動き

【松原神社門前町賑わいづくり】

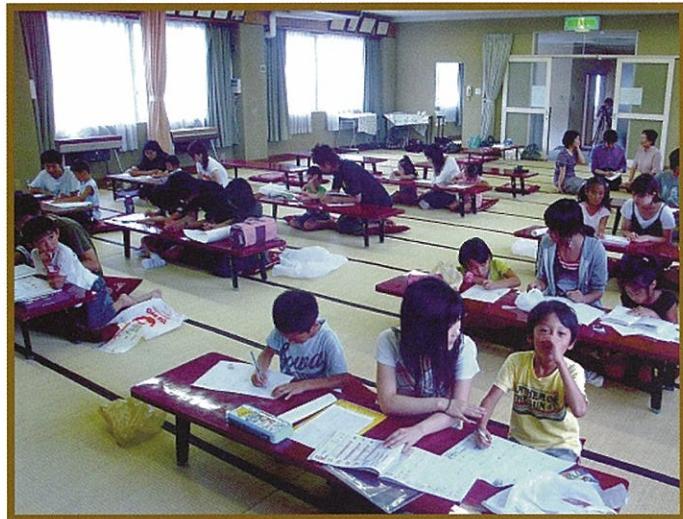
地元商店主や住民により組織された「佐賀ん町屋ば甦らす会」により、松原神社門前町界隈の古い町屋を修復、保存し、多様な市民活動の場として利活用を図り、中心市街地に賑わいを取り戻すための活動に取り組んでいる。



鍋島家ゆかりの正月注連縄づくりワークショップの様子

【佐賀大学まちづくり広場「ばるん」活動】

佐賀大学学生が「街の活性化」策を考え、実現していくために設立した団体、まちづくり広場「ばるん」により、毎月第2土曜日に街なかの清掃活動を行なう「商店街トリートメント活動」が実施されている。また、ゆっつらーと館や勤興公民館において、地域の子どもたちに学校の宿題や予習、復習に対する指導やサポートを通した「子どもの居場所」づくりとして、「ばるん塾」も行なっている。



「ばるん塾」の様子

【佐嘉鍋島三十六萬石大名行列まつり】

NPO法人佐嘉鍋島三十六萬石大名行列まつり推進委員会では、佐賀城本丸の復元を機に平成13年から大名行列を実施してきた。佐賀城本丸（鯨の門）を発着点に、紋付はかま姿の武士や着物姿の腰元などに扮し「下に、下に」の掛け声にあわせ街なかを練り歩く。中心市街地の活性化と佐賀藩の歴史を語り継ぐことを目的に毎年、春と秋に開催している。



柳町での大名行列の様子

14. 街なかの動き

【頑固親父と頑固女将の紹介看板】

北に八幡神社、南に佐賀県庁、中央に「佐賀玉屋」を配する南北500mの商店街である「県庁通り商店街」であるが、独自の取組みを行なっている。例えば、地元コミュニティとの良好な関係を保ち、店主の顔を見えやすくし、より店主のことを知ってもらい、見て楽しく、少しでも会話のネタになればということで、頑固親父と頑固女将の紹介看板を4年前に設置した。



店先に置かれた紹介看板

【ゆっつらーと館】

平成14年11月に佐賀大学地域貢献推進室まちづくりサテライトとして呉服町商店街に開設。名前の由来は、佐賀の方言で「ゆっくり」「ゆったり」という意味で、その名のとおり老いも若きも気兼ねなくゆっつらーと時間が過ごすことができる街のたまり場を目指している。



ゆっつらーと街角大学の様子

【えびすを活用した商店街活性化事業】

佐賀市内に430体以上、特にまちなかに多く存在し、その数日本一と言われている恵比須像を活用したイベント。恵比須ガイドが一体一体の歴史やエピソードを案内して巡り、中心市街地への市民及び観光客の来街による賑わいの創出を図る。



恵比須巡りの様子